

フレンズジム通信

2018年 2月号

【「Contingent imitation」とは】

昨年(2017年)の12月10日に「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装PJ第1回公開シンポジウム」(長いですね・・・)が開催されました。このシンポジウムについての解説は、これまた長くなってしまうので割愛いたしますが、日頃ABA(応用行動分析)を取り入れている児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所の方々や、日本においてABAの地域実装に取り組まれている慶応義塾大学の山本淳一教授から、様々な報告がありました。その中でもとても興味深かった山本淳一教授からの研究報告がありました。それは「Contingent imitation(コンテインジェント イミテーション)」、直訳すると「偶発的な模倣」というもので、子どもがたまたま出している音声を側で大人がそのまま真似をしていく関わり方についての報告でした。

療育者の間でも、まだ発語のないお子さんと関わる際に、お子さんの行動を真似たり、動作を言葉で表現していくなどの関わり方は対人面での能力向上のため、一般的に取り入れられてきています。また、この「コンテインジェントイミテーション」についても、ごく自然に行っている方は多く、実際に音声模倣を大人がしていく事で、子どもが意識を向けてくれたり、発声が増えたりする実感を得ることは多かったと思います。報告では、実際に科学的な根拠を示して「コンテインジェントイミテーション」の有効性を示唆していました。コミュニケーションの始まりって、相手への気付きと共通の表現からですね。真似をしてあげることとはとても大切なんですね。

「お子さんとやりとりのきっかけが上手く見つからない」といった保護者の方にはお勧めです！私もこれまで行ってきた関わり方にオッケーマークがついたような、そんな嬉しい気持ちになりました！ 中野

【豆まきの季節です】



今年もフレンズジムからいろいろな邪気を追い払い、福を呼び込むため、恒例の「豆まき大会」を行います。同時に大豆の移し替え大会も行って、集中力を鍛えようと計画中です。

以前もやったことのある子どもにとっては、どれくらい集中力や目と手の協応動作が伸びているのかを、確認できる良い機会となりそうです。

【保護者懇談会—第2回—】

2月中を予定しておりました懇談会ですが、会場の都合上まだ日程が決まっておりません。決定次第お知らせいたします。

どうぞよろしくお願いいたします！！



立派なキャベツが採れました！
まだ大根は土の中・・・。
おいしくな一れ！